楠浦 陸上 クラブ

発見 地域のお宝

スポーツだけじゃない、総合人間教育に力を注ぐ、楠浦陸上クラブの活動を監督の大中靖さんご自身に語っていただきました。

地域と育む

平成12年7月に現在の監督である私が楠浦公民館に赴任して来たのを機に、地域より陸上の指導を依頼され、10月にクラブを設立しました。

陸上競技を通じて、

「人の話を良く聞ける」

「交通規則を守れる」

「心から挨拶ができる」

また、運動が苦手だった子どもが、マラソン大会で上位入賞、陸上以外の競技でも、バスケットの補欠選手から正選手へ選ばれるなどの成果や、スポーツ以外でも勉強の成績アップなどを果たした子どもも多く、陸上競技を通じて得た「自信」によって、「苦手」としていた事柄にも前向きに挑戦する気持ちの後押しを行う指導が出来てきたと感じています。

走ることは簡単な、また面白みの少ない苦しいスポーツであるように思われますが、これが得意になると周囲の目も変わり、なにより自分自身が何事にも自信を持って臨めるようになってくるのです。たかが走ることですが、陸上競技を基に輝ける人づくりを行いたいと思っています。

これまでの活動が実り、クラブの入部希望者が増え、一人一人に合った細やかな指導ができにくくなっていますが、この先も、出来る限り「走る」こ

「食生活の重要性を体験する」等、集団生活体験を通して、子どもたちの健全育成に寄与する事を目的としました。

生涯学習

ゆとり教育（学校週二日制）の始まりにより、子供たちを土曜日は地域で育てなければならなくなった時に、その核となり陸上だけでなく道路沿線の花壇の手入れや自治公民館の清掃、登山、キャンプ、英会話教室などを交えて指導し、子供たちの成長の手助けを行い、地域の生涯学習に大きく貢献してきました。

「自信」を持つこと

スポーツ指導員の資格を取得してからは、県大会への参加も積極的に行い、上位入賞も数多くありました。

とが「苦手」な子どもたちには、多くの「手をかけ」て「楽しさ」を教え、「得意な」子どもたちには全国高校総体や箱根駅伝等の「夢」を持たせ、今その限られた瞬間をのびのびと生きることの手助けを行っていきたいと思います。

（文　監督　大中　靖）

監　督：大中　靖　**コーチ**：山下将近・濱　いち子・山田　裕己

会員数：小学生50名中学生8名

主な活動内容

① 子供たちの健全育成の支援（ボランティア活動等）

② 子供たちの研修（キャンプ・料理講習）

③ 各種スポーツ行事への参加

○練習場所

楠浦小学校グラウンド

○練習時間

毎週水曜日　午後6時から（12月から3月までは休止）

毎週土曜日　午後4時から（暑さ対策のため夏休みは5時から）

○年会費

5，000円（保険料800円含む）

※今年度の募集は締め切りましたので、今後の入部は次年度までお待ちいただきます。

出会いから得た我が人生

天草市亀場町　大 中　靖
（昭和62年 通信教育学部卒）

天草大会

天草大会日本人5位でフィニッシュ

日大との出会い

高校を卒業して4年、大学で学びたいという気持ちが年毎に強まり、同じ職場の金子君と共に23歳で通信大学の門をたたいた。

それからは昼間サラリーマン、夕方ランナー、その他は勤労学生という三足のわらじを履く過酷な人生の幕開けとなった。当然、休日は勉強と陸上の大会が中心となり、交際相手にはグラウンド練習でのタイム計測やロード練習での車伴走などを協力してもらい、4年間ほとんどの時間をこの3つにつぎ込んだ。

毎年夏休みに1ヶ月間、東京で勉強することがささやかな学生気分を味わえるひと時だった。授業中、先生方が「遅刻をしない・無駄話をしない・前の方から席が埋まる。この通信の授業風景を昼間の生徒達に見せてやりたい」と言われるくらい皆真剣だった。私も、職場の皆に迷惑をかけて上京しているという気持ちもあり、常に公務員という自覚を持ちながら東京での時間を過ごすことにした。

学校へは神田の古本屋街を通りながら通った。帰りは都市対抗野球を後楽園球場に応援しに行くこともあった。応援団の爽快なリズムにのりながら知らないチームを必死に応援することが、田舎者の都会でのささやかな楽しみのひとつだった。

オーストラリア大会

トライアスロンとの出会い

大学を卒業した頃、天草では日本で初めてのトライアスロン大会が行われていた。走るのが得意な私にも当然のごとく白羽の矢が放たれたが、カナヅチの私には「はい」と簡単に返事をできることではなかった。

翌年も職場の人達は諦めずに「これを着ると沈まない」とウエットスーツをプレゼントされた。仕方なく一回だけの約束で出場することにしたが、当日は台風の余波で不幸にも海は荒れ狂っていた。泳ぐ前からリタイアが続出したが、私は清水の舞台から飛び降りるつもりで海に飛び込んだ。400mの旗印までは覚えているが、その後は自転車の10km地点まで全く覚えてなく、本能だけでレースを継続していたようだ。後方からの順位で水泳を終えたが、自転車とランでは本来の力を発揮することができ77位でゴールできたが、満足のいくレースではなかった。

翌年は自分の限界を感じてみたくなり、大会半年前から全ての時間をトライアスロンにつぎ込んだ。夜明けと同時に新和のフェリー乗り場まで30kmの自転車練習（週に2日は牛深まで80km。夕方、水泳2kmと自転車50kmとラン15kmを2日サイクルで2種目行った。その甲斐があり大会の度に記録を更新し、3年目で全日本ランキング21位となり、九州チャンピオンとしてもサイパントライアスロンに招待された。そこで7位になりプロでやりたいという気持ちが湧いてきたが、新妻から猛反対されアマチュアとしてプロと戦うことに生きがいをもつことにした。

子どもたちと

大会はショートタイプ（S1.5km・B40km・R10km）が主流だったが、ロング（S3.9km・B180km・R42km）の大会にも積極的に参加した。ロングは日本で開催される全ての大会に出場した。（宮古島・皆生・琵琶湖・佐渡・北海道）琵琶湖は世界選手権のアジア地区選考会になっていたため、ハワイのアイアンマン（トライアスロン発祥の地）に出場することもできた。上位でゴールすることの快感、表彰式での誉、この競技にめぐり合わなかったら今の自分は形成されてないと思っている。それからは競技以外でも今まで苦にしていたことも自信をもってやれるようになった。

競技歴10年、37歳で体力に限界を感じ引退。この間、日本選手権（熊本県代表）はじめ国内約110レース、世界選手権（31歳～35歳エージ日本代表）はじめ、国外5レースに出場することができた。引退後3年間は、自転車競技・陸上競技の審判としても、日本選手権・都道府県対抗・国体・インターハイ等で関東・関西に出向くことも多かった。

この競技から得たことは「やってやれないことは無い、やらずにできるはずは無い」という何事も諦めないという精神だった。

陸上監督としての出会い

40歳から、これまでのご恩返しのつもりで、スポーツ指導員の資格を取得し、小中学校の陸上クラブの監督と陸上競技協会の事務局長を引き受け、後輩の育成に努めている。家庭でも3人の男の子に恵まれ、皆小学校ではトライアスロンに夢中になり、高校では都大路、大学では箱根駅伝目指して陸上を続けている。小さいとき私の応援に来てくれていた子どもたちが、今はそれぞれが続けられる目標を持ち、それに向かって必死にもがきながら努力している。小さいとき余りかまってやれなかった分、引退してからは子どもたちの応援にはなるべく行くようにしている。すっかり世代交代して私も老けてしまったが、50歳を機に私が今度は子どもたちの背中を見ながらもがいてみようと思い、健康維持のためのフルマラソンとボケ防止のための資格取得試験に毎年挑戦している。

我息絶えるまで子どもたちから目標とされるチャレンジャーでありたい。

日大校友会 熊本県支部総会

□期　日　平成24年8月25日（土）
□場　所　熊本交通センターホテル6F
□日　程　総会　17:00～17:40
　　来賓講話 17:50～18:40
　　～写真撮影～
　　懇親会　19:00～21:00
□来　賓　野田　慶人　副総長（芸術学部長）
　　斉藤　正道　校友会事務局次長
□会　費　一般9,000円　女性6,000円
　　年会費2,000円を含む
□申込み　早めに事務局長・八木 衛へ電話を
　　☎096－286－8611

～編 集 後 記～

●編集をしながらクラブの歴史をさかのぼり、色んな思い出があふれてきました。皆さんにとってもこれまでに嬉しかった事や悔しい、または失敗した経験も多くあった事でしょう。

山梨学院大学駅伝部元監督の上田誠仁氏が箱根駅伝で惨敗し、失敗したり負けて悔しがる選手達へ伝えた言葉の内容が私は大好きです。「過ぎ去った過去には戻れない。ならばこれからの未来を変えて行こうではないか。」

記念誌の表示につけたガーベラの花言葉は「常に前進」、「希望」を意味しています。これからの皆さんの未来に幸あれと願っています。（濱いち子）

●約４カ月前から過去の思い出をかき集め、文章を依頼しそれを極力原文に忠実にタイピングし、いち子コーチにもメールで校正をお願いしながら頑張って作成しました。記録の間違いや意味の違う言葉もあるかもしれませんが、素人の作なのでお許しください。

この文集が次の四半世紀、お父さんお母さんになった君らの子供たちに読まれることを想像しながら作成しました。写真提供、作文提供をしてくれた光る君たちに感謝しながら筆をおきます。とても楽しかった！ありがとう（大中靖）

2024.10.26　発行

実行委員

・田中 誠也
・小林 宗一郎
・吉永 美紀子
・大中 靖
・濱 いち子
・山田 裕己
・森 悠季菜
・森 涼吾